

伊丹市立工芸センター こぐち 木口木版画講座 **古くて新しい★細密表現の木版画**

古くからヨーロッパで新聞や書籍の挿絵として重要な役割をはたしてきた木口木版は、細密で繊細な表現が特徴の版画技法です。集中力の必要な作業ですが、その独特の細密表現を通して、古くて新しい木版の世界を感じていただけるはずです。

関西では珍しいこの講座では、初心者には道具の説明や彫刻刀の持ち方、工程まで指導するので、版画を知らない方でも大丈夫です。経験者は各自テーマを決めて自由制作を。

木口木版画にぜひ挑戦してみてください。

ところで…

木口木版ってなんですか？

木の横断面を版木として使用する版画のこと。版木が固いので、細密な表現が可能です。縦に割った面を使用するのは板目木版といいます。浮世絵などは板目木版。

日程 平成25年1月20日(日)～3月17日(日)の日曜日 全8回

※2月24日は休講

時間 13:30～16:00

場所 伊丹市立工芸センター B2F セミナー室

定員 20名(先着順)

受講料 16,000円(会員 12,800円)

材料費 経験者…椿の版木代 2,000円

初心者…ビュラン(木口木版で使用する彫刻刀)・砥石・版木代等必要(5,000円程度)

その他、版画用紙代等が必要になります。



講師 齋藤 修 氏 版画家・(社)日本版画協会会員

1946 島根県那賀郡三隅町に生まれる

1977 独学で木口木版画制作を始める

1981 第49回版画展(日本版画協会展)に初出品

1994 第9回ソウル国際版画ビエンナーレ(韓国)優秀賞

2002 第5回高知国際版画トリエンナーレ佳作賞

2009 第72回英国木口木版作家協会展在外作家賞

平成14年度文化庁特別派遣芸術家在外研修員としてパリのアトリエ コントラポアンにて研修

初心者

- ・木口木版画の歴史的流れについて
- ・基本的な刃物の使い方
- ・版木の磨き方

初心者・経験者共通

筆記用具・エプロン・下絵・カーボン紙(赤色・片面・A4)・トレーシングペーパー・からとぎ用ペーパーやすり 100番・240番・360番
その他必要なものは講座開始後にお知らせ。

※工芸センターの木口木版講座を初めて受講する方は、ビュラン(彫刻刀)の有無をお申し込み時にお伝えください。

内容

経験者

蔵書票や小作品など、各自の希望に沿って自由に制作していきます。

持ち物

左記の持ち物・版木(続きを制作する方)
ビュラン・ウェス(端布)

※椿の版木を希望する方は、お申し込み時にお伝えください。

●下絵…初心者も経験者も、講座開始までにある程度考えておいてください。

お申し込み・お問い合わせ 伊丹市立工芸センター 月曜日休館(祝日の場合翌日)

〒664-0895 伊丹市宮ノ前2-5-28 TEL:072-772-5557 FAX:072-772-5558

12月1日(土) 10:00 受付開始